

未来

人権教育啓発シリーズ NO.2



ユニバーサルデザインという考え方を最初に提唱したのは、アメリカのロナルド・メイスです。その後、国土交通省から、「ユニバーサルデザイン政策大綱」が出され、取り入れる自治体が増えてきました。今回は、ユニバーサルデザインについて紹介します。

「ユニバーサルデザイン」のめざす社会とは

ユニバーサルデザインの「ユニバーサル」とは、「人類に共通の」という意味の英語です。私たちの社会は、様々な年齢の人、様々な身長・体重の人、力の強い人・弱い人、右利き・左利きの人、障がいのある人・ない人、そして、様々な国籍の人など、多種多様な人々がいます。そのすべての人が、安心して、快適に暮らせる社会を目指すのが、ユニバーサルデザインの考え方です。

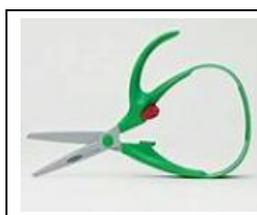
ユニバーサルデザインには、大切な7つの原則があります。

- だれもが公平に使えること
- 使ううえで、自由度が高いこと
- 使い方が簡単で、すぐにわかること
- 必要な情報がすぐにわかること
- うっかりミスをして、危険につながらないデザインであること
- 無理のない姿勢と少ない力で、楽に使えること
- 利用しやすいスペースと、大きさがあること

上記の7原則を踏まえ、多くの企業の取り組みで様々な道具や施設が生まれました。以下に紹介します。



グリップが握りやすい形状になっているフォークとスプーン



持ち手を握っても、テーブルに置いて使えるはさみ



硬貨を入れやすい自動販売機。商品選択ボタンが低い位置にもある。



誰でも利用できるトイレ。入り口が広く、手すりもあり、段差がないので、車いす利用者や高齢者も楽に入れる。洗面台の高さが低くて使いやすい。

はじめから、「みんなにやさしいデザイン」を考え、「だれもが安心して、快適な社会」をつくることができたら、障がいのある人も、障がいを障がいと意識せずに暮らすことができるでしょう。障がいが障がいでなくなる社会。そんな社会がユニバーサルデザインのめざす社会なのです。

参考文献 「ユニバーサルデザインとバリアフリーの図鑑」 ポプラ社